

令和4年度 住宅等敷地内における除排雪 対策に関する区長アンケート調査結果

令和4年7月末時点

I. 調査の概要

(1) 調査の目的

大野市は、屋根雪下ろしなどの住宅等敷地内の除排雪の事故防止が課題となっており、また、今後、人口減少や高齢化などにより、各家庭での除排雪作業の困難性や除排雪の担い手不足が深刻化することから、共助による地域ぐるみの除排雪体制づくりが重要となっています。

今回の調査では、区長を対象に、行政区ごとの除排雪の現状や課題を把握するとともに、今後必要な支援制度や取組等の検討を行うための基礎資料とすることを目的としています。

(2) 調査期間

令和4年6月

(3) 調査の対象及び回収状況

対 象：大野市の区長

配布数：209 行政区

回答方法：郵送、または窓口への直接提出

回収数：174 行政区

回収率：83.3%

<地域別の配布数・回収状況>

地域別	配布数	回収数	回収率
大野	72	61	84.7%
下庄	32	26	81.3%
乾側・小山	23	20	87.0%
上庄	32	27	84.4%
富田・五箇	21	19	90.5%
阪谷	18	12	66.7%
和泉	11	8	72.7%
不明	-	1	0.6%
合計		174	83.3%

(4) グラフ及び表に関して

本調査では、回答者全体と地域別（7区分）で集計を行っています。

本調査のグラフ及び表に関して、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しているため、合計が必ずしも100%にならない場合があります。

II. 調査結果の概要

1. お住まいの区の除排雪に関する現状・課題について

◆ 地域内での除排雪支援の必要性（問1）

- ほとんどの地区（約9割）で支援が必要な世帯がいることが読み取れます。
- 支援が必要な世帯は、「高齢者単身世帯」（約8割）が最も割合が高く、次いで「高齢者世帯（高齢者のみ複数いる世帯）」（約7割）、「女性のみ世帯」（約6割）の順に高くなっています。
- 地域別でみると、「高齢者単身世帯」や「女性のみ世帯」は、阪谷地区や乾側・小山地区の割合が高くなっています。
- 和泉地区では、他の地区と異なり、「高齢者世帯（高齢者のみ複数いる世帯）」が最も高くなっています。
- 「要介護の認定を受けている者がいる世帯」は、上庄地区（約5割）の割合が最も高く、他の地区と差が見られます。
- 「女性と子どものみ世帯」は、下庄地区（約3割）が最も割合が高くなっています。

◆ 地域での除排雪の支援活動の状況や必要性（問2）

- 支援する活動がある行政区は、回答者全体で約3割であり、支援活動は、「屋根雪下ろし」が最も多くなっています。
- 支援する活動がない行政区は、回答者全体で約6割である。その回答者のうち、「支援する活動が必要だと思うが、できていない」は約7割（回答者全体の約4割に相当）となっており、必要だと感じてはいるものの、実施できていない地区が一定数あります。
- 「支援する活動が必要だと思うが、できていない」主な理由は、「人手がない」、「他の人の除雪まで手が回らない」、「ケガが心配」などがあります。
- 「支援する活動は必要ない」主な理由は、「市内や近隣に親族がいる」、「自身で対応している」、「区内に支援者がいない」、「除排雪の必要性がない」などがあります。

◆ 除排雪で困っていることまたは困ることが想定されていること（問3）

- 主な困りごとは、「人身事故や物損事故が心配」（約5割）、「支援活動ができる人材がない」（約5割）、「支援が必要な世帯が多い」（約4割）となっています。
- 「人身事故や物損事故が心配」は乾側・小山地区（約8割）が、「支援活動ができる人材がない」は上庄地区や和泉地区、下庄地区（約6割）が、「支援が必要な世帯が多い」は下庄地区と上庄地区（約5割）が、高い割合となっています。
- 「雪を捨てる場所がない」は大野地区が、「所有者が特定できず、空き家の除排雪が進まない」は大野地区と和泉地区の割合が他の地域よりも高くなっています。

◆ 屋根雪下ろしや住宅等周囲敷地における除排雪作業時の危険性（問4）

- 屋根雪下ろしで危険だと感じることは、「一人で作業を行っている（高齢者等に限らない）」（約8割）、「ヘルメットや安全帯を身に付けずに作業を行っている」（約7割）、「高齢者のみで作業を行っている」（約7割）の順に割合が高くなっています。
- 地域別では、「高齢者のみで作業を行っている」、「一人で作業を行っている（高齢者等に限らない）」、「ヘルメットや安全帯を身に付けずに作業を行っている」は、いずれも阪谷地区の割合が高くなっています。「夜間に作業を行っている」は、和泉地区（約3割）が他の地区よりも高くなっています。
- 住宅等周囲敷地で危険だと感じることは、「交通量の多い道のそばで作業を行っている」や「夜間に作業を行っている」（約3割）が高くなっています。
- 地域別では、「交通量の多い道のそばで作業を行っている」と「夜間に作業を行っている」は大野地区が最も高く、「除雪資機材の取り扱いになれていない」は阪谷地区が最も高くなっています。
- 屋根雪下ろしの方が住宅等周囲敷地における除排雪よりも、危険だと感じている割合が高い状況となっています。

◆ 除排雪の事故防止や体制づくりに必要な支援（問5）

- 必要な支援について、屋根雪下ろしや住宅等周囲の敷地を除排雪作業するための「装備・除雪資機材の購入費補助」や「除排雪支援を行う人に対する保険の加入支援」に対する回答の割合が高い一方で、「安全な除排雪作業に向けた手押し式小型除雪機の講習会の実施支援」や「地域ぐるみの除排雪作業のノウハウなどの情報提供」の割合は低く、普及啓発に関するニーズは高くないことが読み取れます。

◆ 市の除排雪に対する支援制度の認知度（問6）

- 「雪下ろし作業者の紹介」や「高齢者等雪下ろし支援事業」の認知度は、8割以上となっていますが、それと比較すると「地域ぐるみ雪下ろし支援事業」は約7割と少し低くなっています。
- 「地域ぐるみ雪下ろし支援事業」の認知度は、乾側・小山地区や下庄地区が他の地域と比べると高く、認知度の差が見られます。
- 和泉地区では、全ての支援制度について、他の地区よりも認知度が低い傾向にあります。
- 認知度が低い地区については、制度のさらなる周知が必要となります。

◆ 地域ぐるみ雪下ろし支援事業について不便な点（問7）

- 地域ぐるみ雪下ろし支援事業の不便な点については、特に制度の補助額に関する意見が多く見られます。

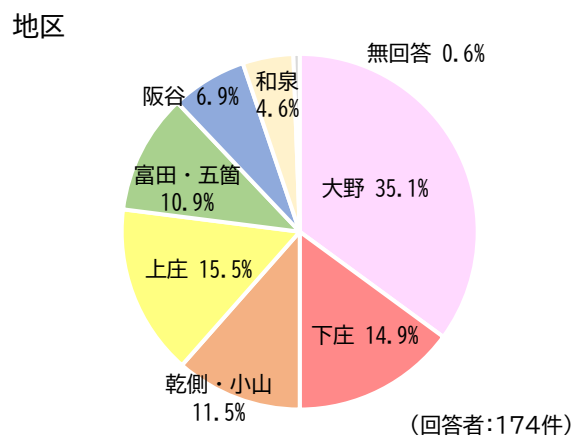
◆ 市の除排雪対策全般について（問8）

- 主に「共助体制、人材の確保」、「支援制度の見直し・拡充」、「屋根雪下ろしの除排雪時の装備・資機材」、「住宅等敷地内の除排雪の資機材」、「自宅以外の除排雪」、「雪の捨て場」、「流雪溝」、「道路の除排雪」等についての要望や意見があります。

II. 調査結果

<回答者ご自身について>

■回答者の行政区



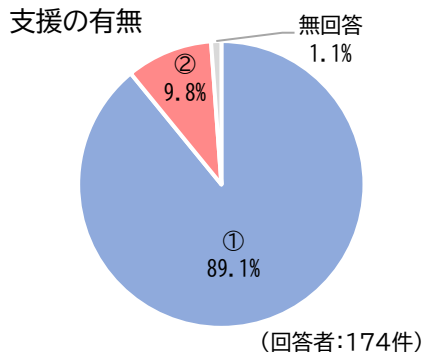
地区名	回答数	構成比
大野	61	35.1%
下庄	26	14.9%
乾側・小山	20	11.5%
上庄	27	15.5%
富田・五箇	19	10.9%
阪谷	12	6.9%
和泉	8	4.6%
無回答	1	0.6%
合計	174	100.0%

1. お住まいの区の除排雪に関する現状・課題について

問1：お住まいの区内で除排雪支援が必要な世帯はありますか。（1つ選択）
 1を選択された場合は、支援が必要な世帯の分類についてご記入ください。（該当するもの全て選択）

◆問1-1 支援の有無【回答者全体】

・「①支援が必要な世帯がある」と回答したのは、回答者全体で約9割を占めています。

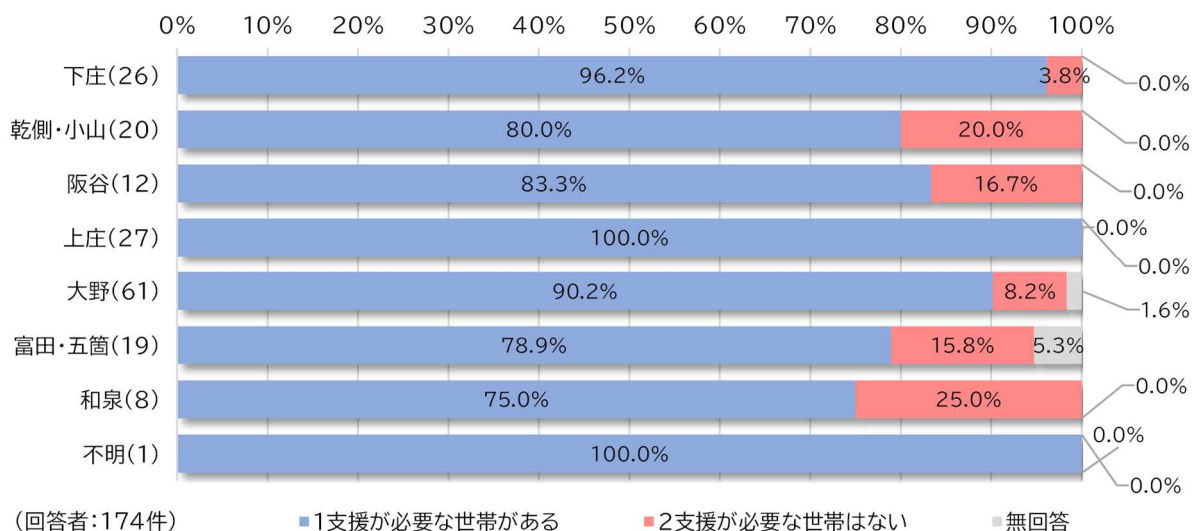


●全体集計	回答数	構成比
① 支援が必要な世帯がある	155	89.1%
② 支援が必要な世帯はない	17	9.8%
無回答	2	1.1%
合計	174	100%

◆問1-1 支援の有無【地域別】

- ・地域別では、「①支援が必要な世帯がある」と回答した地区は、上庄地区（100%）の割合が最も高く、次いで、下庄地区（96.2%）、大野地区（90.2%）の順に高くなっています。
- ・一方で、「②支援が必要な世帯はない」と回答した地区は、和泉地区（25.0%）の割合が最も高く、次いで、乾側・小山地区（20.0%）、阪谷地区（16.7%）、富田・五箇地区（15.8%）となっています。

除排雪支援が必要な世帯



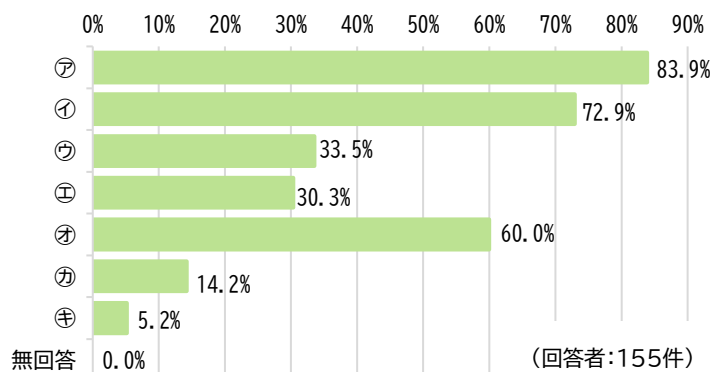
●地域別集計 (回答数)	1支援が必要な世帯がある	2支援が必要な世帯はない	無回答	総計
下庄(26)	25	1	0	26
乾側・小山(20)	16	4	0	20
阪谷(12)	10	2	0	12
上庄(27)	27	0	0	27
大野(61)	55	5	1	61
富田・五箇(19)	15	3	1	19
和泉(8)	6	2	0	8
不明(1)	1	0	0	1
総計(174)	155	17	2	174

●地域別集計 (回答率)	1支援が必要な世帯がある	2支援が必要な世帯はない	無回答	総計
下庄(26)	96.2%	3.8%	0.0%	100%
乾側・小山(20)	80.0%	20.0%	0.0%	100%
阪谷(12)	83.3%	16.7%	0.0%	100%
上庄(27)	100.0%	0.0%	0.0%	100%
大野(61)	90.2%	8.2%	1.6%	100%
富田・五箇(19)	78.9%	15.8%	5.3%	100%
和泉(8)	75.0%	25.0%	0.0%	100%
不明(1)	100.0%	0.0%	0.0%	100%
総計(174)	89.1%	9.8%	1.1%	100%

◆問1-2 支援が必要な世帯の分類【回答者全体】

- 支援が必要な世帯は、「㊦高齢者単身世帯」(83.9%)が最も割合が高く、次いで「㊩高齢者世帯(高齢者のみ複数いる世帯)」(72.9%)、「㊤女性のみの世帯」(60.0%)の順に高くなっています。

支援が必要な世帯の分類



●全体集計	回答数	構成比
㊦ 高齢者単身世帯	130	83.9%
㊩ 高齢者世帯(高齢者のみ複数いる世帯)	113	72.9%
㊥ 障がいを持つ者がいる世帯	52	33.5%
㊦ 要介護の認定を受けている者がいる世帯	47	30.3%
㊤ 女性のみの世帯	93	60.0%
㊧ 女性と子どものみの世帯	22	14.2%
㊨ その他	8	5.2%
無回答	0	0.0%
合計	465	

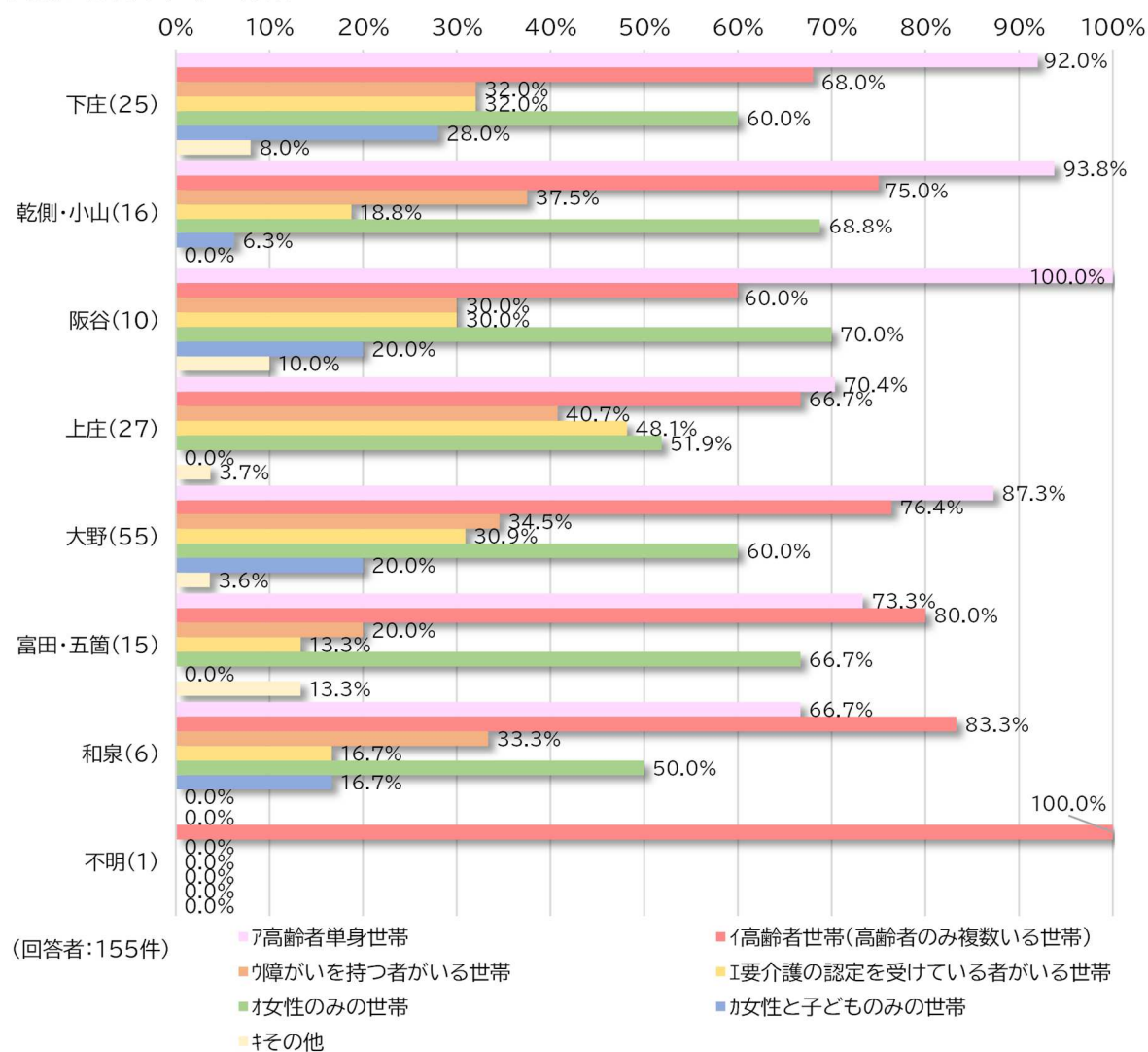
<その他の意見>

- ・空き家(2)
- ・障がい者、要介護認定を受けている者、女性と子どものみの世帯等は、確認が取れていない、区長に情報が入らない。
- ・障がいを持つ単身世帯
- ・市民税非課税世帯
- ・冬期は住んでいない(12月~4月は市内で生活)。

◆問1-2 支援が必要な世帯の分類【地域別】

- ・「㊦高齢者単身世帯」について、阪谷地区（100%）が最も割合が高く、次いで、乾側・小山地区（93.8%）、下庄地区（92.0%）となっています。
- ・ほとんどの地区で「㊦高齢者単身世帯」の割合が最も高くなっていますが、和泉地区と富田・五箇地区では、「㊩高齢者世帯（高齢者のみ複数いる世帯）」が最も高くなっています。
- ・「㊥要介護の認定を受けている者がいる世帯」は、上庄地区（48.1%）が最も割合が高くなっており、他の地区よりも割合が高くなっています。
- ・「㊧女性と子どものみの世帯」は、下庄地区（28.0%）が最も割合が高く、次いで阪谷地区（20.0%）、大野地区（20.0%）の順に割合が高くなっています。

支援が必要な世帯の分類



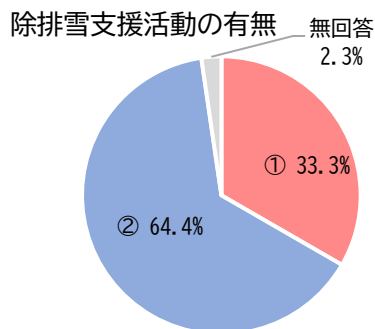
●地域別集計 (回答数)	ア高齢者 単身世帯	イ高齢者世帯 (高齢者のみ複 数いる世帯)	ウ障がい を持つ者が いる世帯	エ要介護の認定 を受けている者 がいる世帯	オ女性の みの世帯	カ女性と 子どもの みの世帯	キその他
下庄(25)	23	17	8	8	15	7	2
乾側・小山(16)	15	12	6	3	11	1	0
阪谷(10)	10	6	3	3	7	2	1
上庄(27)	19	18	11	13	14	0	1
大野(55)	48	42	19	17	33	11	2
富田・五箇(15)	11	12	3	2	10	0	2
和泉(6)	4	5	2	1	3	1	0
不明(1)	0	1	0	0	0	0	0
総計(155)	130	113	52	47	93	22	8

●地域別集計 (回答率)	ア高齢者 単身世帯	イ高齢者世帯 (高齢者のみ複 数いる世帯)	ウ障がい を持つ者が いる世帯	エ要介護の認定 を受けている者 がいる世帯	オ女性の みの世帯	カ女性と 子どもの みの世帯	キその他
下庄(25)	92.0%	68.0%	32.0%	32.0%	60.0%	28.0%	8.0%
乾側・小山(16)	93.8%	75.0%	37.5%	18.8%	68.8%	6.3%	0.0%
阪谷(10)	100.0%	60.0%	30.0%	30.0%	70.0%	20.0%	10.0%
上庄(27)	70.4%	66.7%	40.7%	48.1%	51.9%	0.0%	3.7%
大野(55)	87.3%	76.4%	34.5%	30.9%	60.0%	20.0%	3.6%
富田・五箇(15)	73.3%	80.0%	20.0%	13.3%	66.7%	0.0%	13.3%
和泉(6)	66.7%	83.3%	33.3%	16.7%	50.0%	16.7%	0.0%
不明(1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
総計(155)	83.9%	72.9%	33.5%	30.3%	60.0%	14.2%	5.2%

問2：お住まいの区内で個人の敷地内の除排雪を支援する活動はありますか。（1つ選択）
2を選択された場合は、支援する活動の必要性の有無について（1つ選択）

◆問2-1 地域での除排雪支援活動の有無【回答者全体】

・「②支援する活動はない」が約6割となっています。



(回答者:174件)

●全体集計	回答数	構成比
① 支援する活動がある	58	33.3%
② 支援する活動はない	112	64.4%
無回答	4	2.3%
合計	174	100%

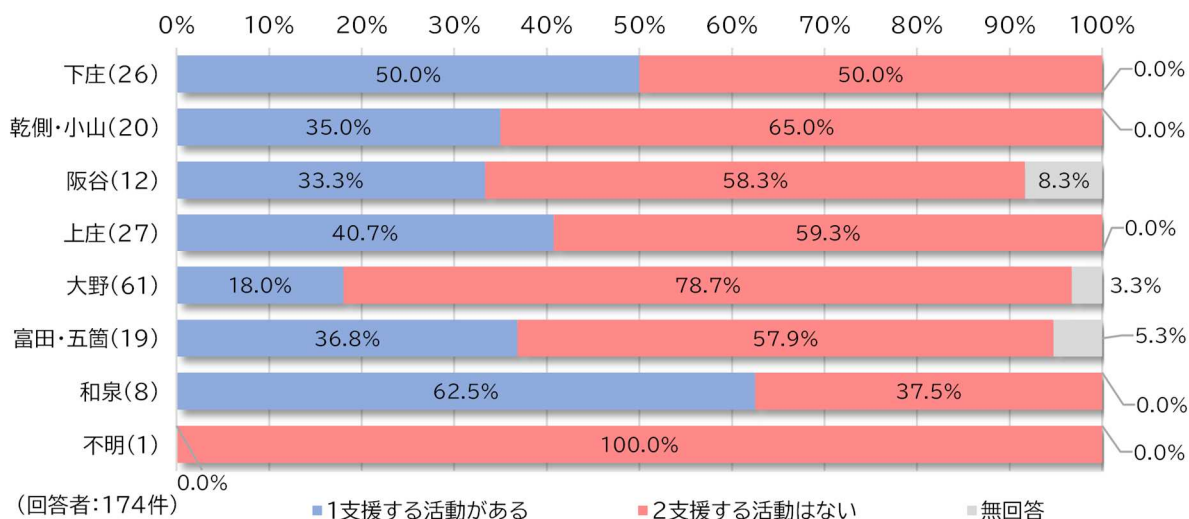
<① 支援する活動がある：具体的な支援活動の内容>

・屋根雪下ろし（43）
・道路の除雪（3）
・道路から玄関前の除雪（4）
・玄関前・まわりの除雪（14）
・軒下の除雪（1）
・区内の体力のある方が、屋根雪下ろしの支援を行っている（個々の契約）
・区内の土木業者の方が、ボランティアでタイヤドーザーを使用して支援
・町内会で困難世帯から協力金（1万円程度）を集金して業者（除雪用ブルドーザー所有者）に依頼
・市の雪下ろし支援事業の準用で区独自の判断で区民の共助として実施
・各班長が周辺目視→問題があれば、区長へ連絡して指示を受けると決めている
・区内有志で一人暮らし老人玄関先の除雪活動
・屋根雪下ろし及び玄関前通路除雪（休日のみ）3名1班で、2班体制
・ゴミステーションとして提供して頂いている場所は、ごみ当番・町内の役員が自主的に除雪
・空き家の家主に依頼されて屋根雪下ろしを実施
・道路に落とした雪の始末
・雪下ろし支援事業に取り組んでいる

◆問2-1 地域での除排雪支援活動の有無【地域別】

- ・「①支援する活動がある」と回答した地区は、和泉地区（62.5%）が最も割合が高くなっています。
- ・「②支援する活動はない」と回答した地区は、大野地区（78.7%）が最も割合が高く、次いで乾側・小山地区（65.0%）、上庄地区（59.3%）となっています。

個人の敷地内の除排雪を支援する活動



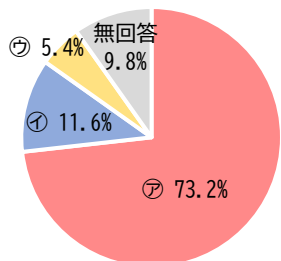
●地域別集計 (回答数)	1支援する活動がある	2支援する活動はない	無回答	総計
下庄(26)	13	13	0	26
乾側・小山(20)	7	13	0	20
阪谷(12)	4	7	1	12
上庄(27)	11	16	0	27
大野(61)	11	48	2	61
富田・五箇(19)	7	11	1	19
和泉(8)	5	3	0	8
不明(1)	0	1	0	1
総計(174)	58	112	4	174

●地域別集計 (回答率)	1支援する活動がある	2支援する活動はない	無回答	総計
下庄(26)	50.0%	50.0%	0.0%	100%
乾側・小山(20)	35.0%	65.0%	0.0%	100%
阪谷(12)	33.3%	58.3%	8.3%	100%
上庄(27)	40.7%	59.3%	0.0%	100%
大野(61)	18.0%	78.7%	3.3%	100%
富田・五箇(19)	36.8%	57.9%	5.3%	100%
和泉(8)	62.5%	37.5%	0.0%	100%
不明(1)	0.0%	100.0%	0.0%	100%
総計(174)	33.3%	64.4%	2.3%	100%

◆問2-2 支援する活動の必要性の有無、理由【回答者全体】

・「㉔支援する活動はない」と回答した地区のうち、「㉗支援する活動が必要だと思うが、できていない」が約7割を占めており、多くの行政区で必要だと感じてはいるものの、実施できていない状況があります。

支援する活動の必要性



(回答者:112件)

●全体集計	回答数	構成比
㉗ 支援する活動は必要だと思うが、できていない	82	73.2%
㉔ 支援する活動はない	13	11.6%
㉕ その他	6	5.4%
無回答	11	9.8%
合計	112	100%

<その他の意見>

- ・支援する活動は必要だが、区の取り決めで個人への支援は行わないことにしている
- ・支援の要請がない
- ・前区長が個人的にしていた

<ア 支援する活動は必要だと思うが、できていない理由>

人手がない	<ul style="list-style-type: none"> ・支援は1人や2人では困難であり、町内にはグループを作って活動できるほど人数が集まらない。保険面も心配であり、積極的にグループ作りをすることが出来ない。 ・区民の高齢化と若い人の勤務時間の長時間化等で人材がない。 ・玄関前の排雪などは日々協力できているが、敷地内の屋根雪下ろしなどについては、若い人も少なく行えていない。 ・支援活動が出来るものが高齢になり、若者が少なく実現できない。
他の人の除雪まで手が回らない	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の事で手一杯でなかなか他人の除雪まで気配り出来ない。雪を捨てる場所がない。 ・町内の方々が高齢で、自宅の除排雪で精一杯の為、隣人同士等、若干の助け合いはあるが、町内での活動とはなっていない。 ・高齢者世帯がほとんどの為、他人の支援まで手が届かない。 ・必要な事は協力しようという意識はあるが、現実を考えると実家の除排雪(休みが限られている)等でボランティアにも限界がある。 ・屋根雪下ろしについては、時期が重なる為、他の家まで手が回らない。
ケガが心配	<ul style="list-style-type: none"> ・作業中の事故を考えると区として推進していくのは悩ましい。 ・除排雪の際に事故などの保証の問題がある。 ・自宅以外は経験不足で危ない。 ・屋根雪下ろし作業で大きなけがを思うとなかなか踏み切れない。
体制が整っていない	<ul style="list-style-type: none"> ・活動する体制仕組みが整っていない。 ・雪を捨てる場所がない。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性は感じているが、除雪機の確保やオペレーター要員等が課題。 ・積雪の多い日が連日となると、玄関から表通りまでの道が長く、排雪の捨て場が高くなり手作業では非常に困難で道らしい道が出来ない。 ・本人からの要請がない

<イ 支援する活動は必要ない理由>

市内や近隣に親族がいる	<ul style="list-style-type: none"> ・親族が近郊におり、適時除雪等を行っている。 ・市内に身内が住んでおり、その都度、除排雪に来ている。 ・市内（住んでいる地区外）に子供がいる。 ・長男夫婦が毎日通勤している。
自身で対応している	<ul style="list-style-type: none"> ・現状、それぞれの世帯が除排雪の対応を取っている。（２）
区内に支援者がいない	<ul style="list-style-type: none"> ・区内に支援する人がいない。
除排雪の必要性がない	<ul style="list-style-type: none"> ・融雪している三番通りに面しているので玄関口の除排雪は必要ない。
今後必要	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、各家で除雪(屋根の雪下ろし)が行われているが、数年後には高齢化が進み、何らかの支援体制が必要であると感じている。 ・現在は必要ないが、高齢者・単身世帯が複数ある為、5年・10年後には必要になってくる。

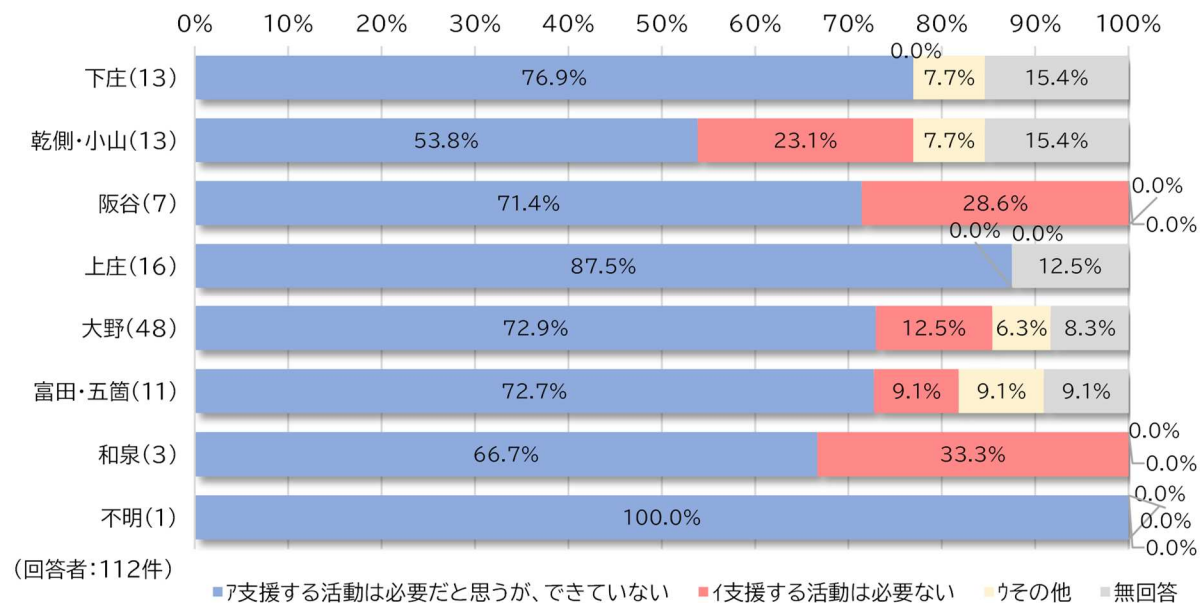
<ウ その他>

業者等に依頼している	<ul style="list-style-type: none"> ・当地区は全世帯が(農)アバンセ乾側の組合員であり、アバンセ乾側に依頼すると職員が屋根雪下ろしなどを実施してくれる。但し、組合員限定の受託作業であり有料。 ・事故が発生した場合、保険だけで済まされないから、市の支援事業を活用してもらう事にしている。 ・シルバー人材から定期的に除雪しに来ている
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・区として行う活動は特に定めていない。前区長が個人的に高齢者単身世帯の玄関前除雪をされていた。 ・身内の方が来て行っている。

◆問2-2 支援する活動の必要性【地域別】

- ・「㉞支援する活動が必要だと思うが、できていない」と回答した地区は、上庄地区（87.5%）の割合が最も高く、次いで下庄地区（76.9%）、大野地区（72.9%）の順となっています。
- ・一方で「㉟支援する活動は必要ない」と回答した地区は、和泉地区（33.3%）の割合が最も高く、次いで阪谷地区（28.6%）、乾側・小山地区（23.1%）となっており、他の地区と比較すると割合が高くなっています。

支援活動の必要性の有無



●地域別集計 (回答数)	㉞支援する活動は必要だ と思うが、できていない	㉟支援する活動 は必要ない	ウその他	無回答	総計
下庄(13)	10	0	1	2	13
乾側・小山(13)	7	3	1	2	13
阪谷(7)	5	2	0	0	7
上庄(16)	14	0	0	2	16
大野(48)	35	6	3	4	48
富田・五箇(11)	8	1	1	1	11
和泉(3)	2	1	0	0	3
不明(1)	1	0	0	0	1
総計(112)	82	13	6	11	112

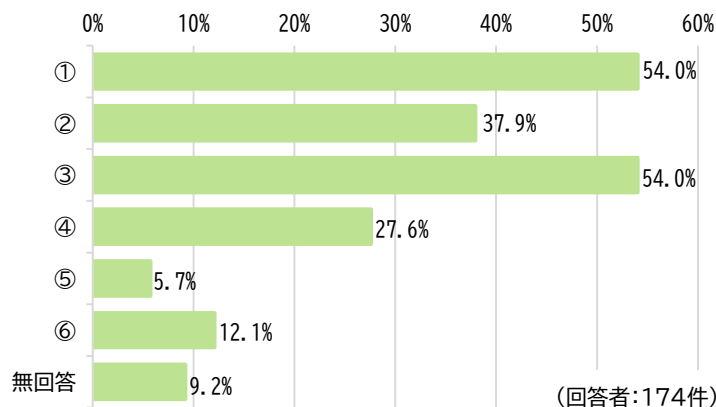
●地域別集計 (回答率)	㉞支援する活動は必要だ と思うが、できていない	㉟支援する活動 は必要ない	ウその他	無回答	総計
下庄(13)	76.9%	0.0%	7.7%	15.4%	100%
乾側・小山(13)	53.8%	23.1%	7.7%	15.4%	100%
阪谷(7)	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	100%
上庄(16)	87.5%	0.0%	0.0%	12.5%	100%
大野(48)	72.9%	12.5%	6.3%	8.3%	100%
富田・五箇(11)	72.7%	9.1%	9.1%	9.1%	100%
和泉(3)	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100%
不明(1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
総計(112)	73.2%	11.6%	5.4%	9.8%	100%

問3：お住まいの区内で個人の敷地内の除排雪を支援する際に、現に困っていること、または困ることが想定されることはありますか。（あてはまるもの全て選択）

◆問3 除排雪で困っていること【回答者全体】

- 除排雪で困っていることや困ることが想定されることとして、「①屋根雪下ろしや住宅等周囲の敷地の除排雪の支援活動ができる人材がない」（54.0%）と「③除排雪に伴う人身事故や物損事故が心配される」（54.0%）の割合が最も高く、次いで「②屋根雪下ろしや住宅等周囲の敷地の除排雪の支援が必要な世帯が多い」（37.9%）の順に高くなっています。

除排雪で困っていること



●全体集計	回答数	構成比
① 屋根雪下ろしや住宅等周囲の敷地の除排雪の支援活動ができる人材がない	94	54.0%
② 屋根雪下ろしや住宅等周囲の敷地の除排雪の支援が必要な世帯が多い	66	37.9%
③ 除排雪に伴う人身事故や物損事故が心配	94	54.0%
④ 雪を捨てる場所がない	48	27.6%
⑤ 所有者が特定できず、空き家の除排雪が進まない	10	5.7%
⑥ その他	21	12.1%
無回答	16	9.2%
合計	349	

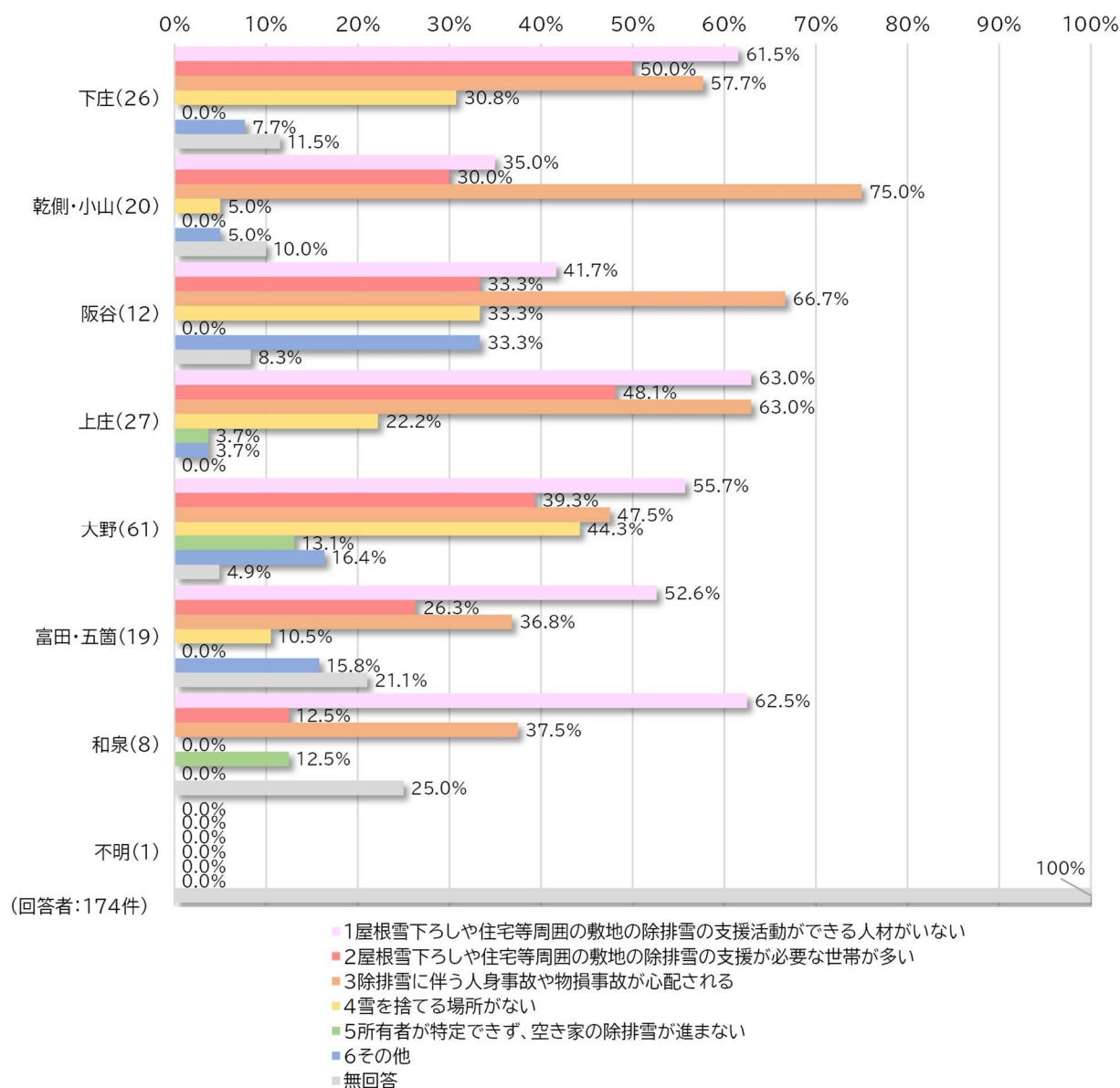
<その他の意見>

- ・ 現在は何とか支援できているが、将来は支援が必要な世帯が多くなり、人材不足となる可能性が高い。
- ・ 最近は、屋根雪下ろしの経験が無い人(特に若い人達)も多く、協力依頼しづらい。
- ・ 若い人は仕事があり、平日は出られない。休みの土日は自分の家の除雪等で他へは手が回らない。
- ・ 雪下ろしの際、転落防止の対策をして下さいと広報しているが、具体的、現実的な方法が示されていない。
- ・ 空き家の所有者が特定できても、除排雪をしない。雪の重さによる倒壊や瓦の落下が確認され危険である。
- ・ 除雪車が玄関前に置いていった圧雪を始末するのだが、流雪溝の水量が少なく、川の流れが悪い為大変困っている。
- ・ 三番通りは融雪していて融雪代を各家からもらっていますが、戸数が減れば、負担金が増える点が心配。
- ・ 除雪機械がない。

◆問3 除排雪で困っていること【地域別】

- 「①屋根雪下ろしや住宅等周囲の敷地の除排雪の支援活動ができる人材がない」は、上庄地区（63.0%）の割合が最も高く、次いで和泉地区（62.5%）と下庄地区（61.5%）となっています。
- 「②屋根雪下ろしや住宅等周囲の敷地の除排雪の支援が必要な世帯が多い」は、下庄地区（50.0%）の割合が最も高く、次いで上庄地区（48.1%）、大野地区（39.3%）となっています。
- 「③除排雪に伴う人身事故や物損事故が心配される」は、乾側・小山地区（75.0%）の割合が最も高く、次いで阪谷地区（66.7%）、上庄地区（63.0%）の順に高くなっています。
- 「④雪を捨てる場所がない」は、大野地区（44.3%）の割合が最も高く、次いで阪谷地区（33.3%）、下庄地区（30.8%）の順に高くなっています。
- 「⑤所有者が特定できず、空き家の除排雪が進まない」は、他の選択肢よりも回答の割合が少ないものの、大野地区（13.1%）では一定数あることが読み取れます。

除排雪で困っていること



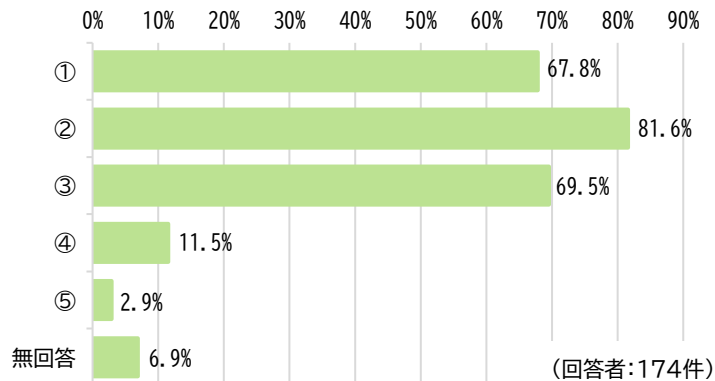
●地域別集計 (回答数)	1屋根雪下ろしや住宅等周囲の敷地の除排雪の支援活動ができる人材が少ない	2屋根雪下ろしや住宅等周囲の敷地の除排雪の支援が必要な世帯が多い	3除排雪に伴う人身事故や物損事故が心配される	4雪を捨てる場所がない	5所有者が特定できず、空き家の除排雪が進まない	6その他	無回答
下庄(26)	16	13	15	8	0	2	3
乾側・小山(20)	7	6	15	1	0	1	2
阪谷(12)	5	4	8	4	0	4	1
上庄(27)	17	13	17	6	1	1	0
大野(61)	34	24	29	27	8	10	3
富田・五箇(19)	10	5	7	2	0	3	4
和泉(8)	5	1	3	0	1	0	2
不明(1)	0	0	0	0	0	0	1
総計(174)	94	66	94	48	10	21	16
●地域別集計 (回答率)	1屋根雪下ろしや住宅等周囲の敷地の除排雪の支援活動ができる人材が少ない	2屋根雪下ろしや住宅等周囲の敷地の除排雪の支援が必要な世帯が多い	3除排雪に伴う人身事故や物損事故が心配される	4雪を捨てる場所がない	5所有者が特定できず、空き家の除排雪が進まない	6その他	無回答
下庄(26)	61.5%	50.0%	57.7%	30.8%	0.0%	7.7%	11.5%
乾側・小山(20)	35.0%	30.0%	75.0%	5.0%	0.0%	5.0%	10.0%
阪谷(12)	41.7%	33.3%	66.7%	33.3%	0.0%	33.3%	8.3%
上庄(27)	63.0%	48.1%	63.0%	22.2%	3.7%	3.7%	0.0%
大野(61)	55.7%	39.3%	47.5%	44.3%	13.1%	16.4%	4.9%
富田・五箇(19)	52.6%	26.3%	36.8%	10.5%	0.0%	15.8%	21.1%
和泉(8)	62.5%	12.5%	37.5%	0.0%	12.5%	0.0%	25.0%
不明(1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
総計(174)	54.0%	37.9%	54.0%	27.6%	5.7%	12.1%	9.2%

問4：お住まいの区内で個人等が行う除排雪作業について、危険だと感じることはありますか。（あてはまるもの全て選択）

◆問4-1 屋根雪下ろしの作業時の危険【回答者全体】

- 屋根雪下ろしの作業時に危険だと感じることは、「②一人で作業を行っている（高齢者等に限らない）」（81.6%）の割合が最も高く、次いで「③ヘルメットや安全帯を身に付けずに作業を行っている」（69.5%）、「①高齢者のみで行っている」（67.8%）となっています。

屋根雪下ろし時の危険



●全体集計	回答数	構成比
① 高齢者のみで行っている	118	67.8%
② 一人で作業を行っている（高齢者等に限らない）	142	81.6%
③ ヘルメットや安全帯を身に付けずに作業を行っている	121	69.5%
④ 夜間に作業を行っている	20	11.5%
⑤ その他	5	2.9%
無回答	12	6.9%
合計	418	

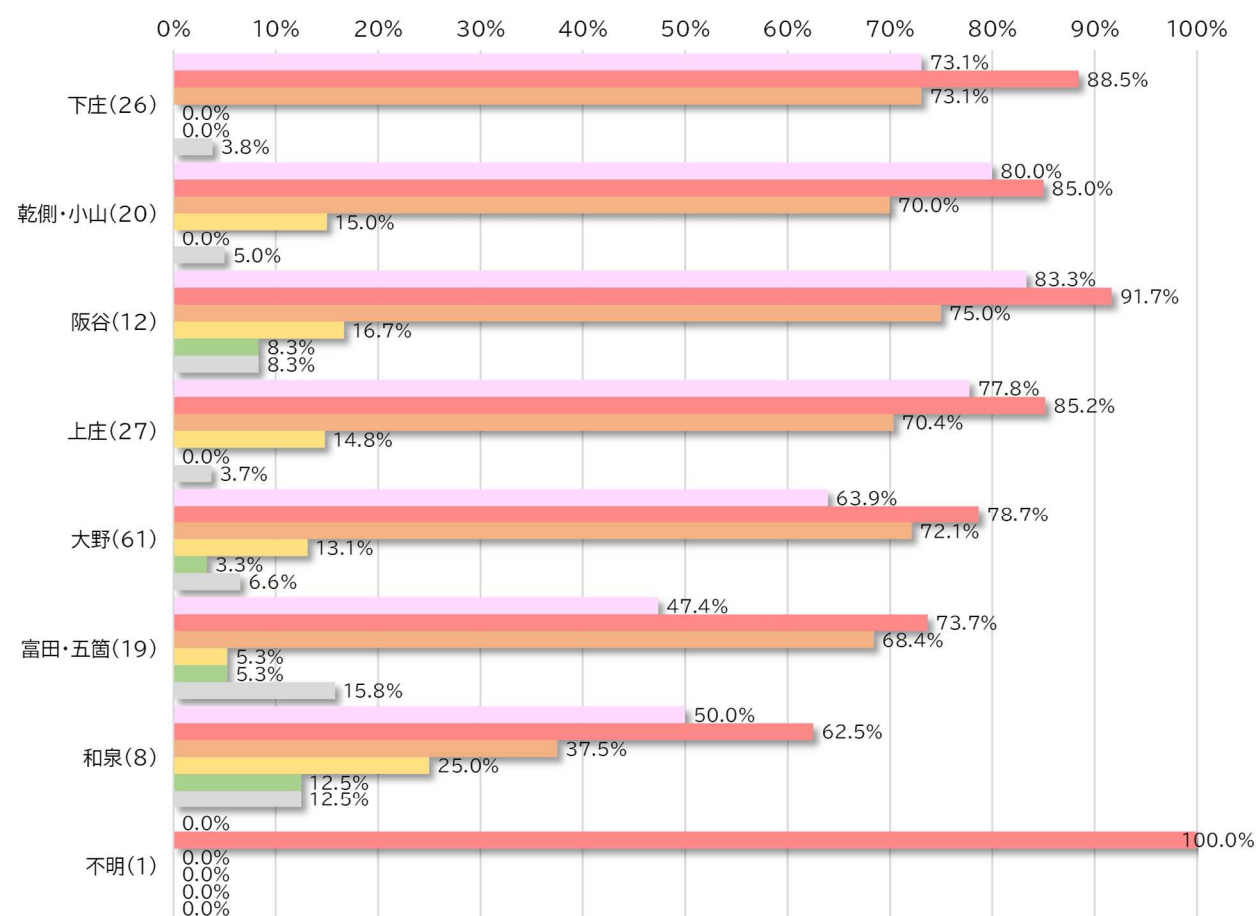
<その他の意見>

- 屋根が高所にあり、屋根に登る際に不安(落下など)を感じる。
- もう屋根には上れない
- 安全具を持っていない
- 一般家屋では、アンカー等の安全帯を付ける設備がない。

◆問4-1 屋根雪下ろしの作業時の危険【地域別】

- ・「①高齢者のみで作業を行っている」は、阪谷地区（83.3%）の割合が最も高く、次いで乾側・小山地区（80.0%）、上庄地区（77.8%）の順に高くなっています。
- ・「②一人で作業を行っている（高齢者等に限らない）」は、阪谷地区（91.7%）の割合が最も高く、次いで下庄地区（88.5%）、上庄地区（85.2%）の順に高くなっています。
- ・「③ヘルメットや安全帯を身に付けずに作業を行っている」は、阪谷地区（75.0%）の割合が最も高く、次いで、下庄地区（73.1%）、大野地区（72.1%）の順に高くなっています。一方で、和泉地区（37.5%）は危険だと感じている割合が他の地区よりも低くなっています。
- ・「④夜間に作業を行っている」は、和泉地区（25.0%）で他の地区よりも割合が高くなっています。

屋根雪下ろしの作業時、危険だと感じること



(回答者:174件)

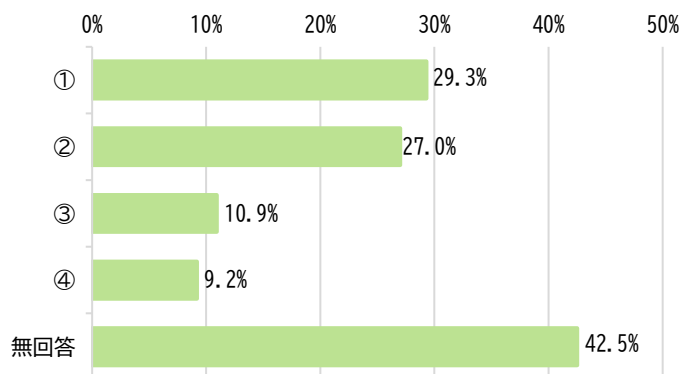
- ①高齢者のみで作業を行っている
- ②一人で作業を行っている(高齢者等に限らない)
- ③ヘルメットや安全帯を身に付けずに作業を行っている
- ④夜間に作業を行っている
- ⑤その他
- 無回答

●地域別集計 (回答数)	1高齢者のみで作業を行っている	2一人で作業を行っている(高齢者等に限らない)	3ヘルメットや安全帯を身に付けずに作業を行っている	4夜間に作業を行っている	5その他	無回答
下庄(26)	19	23	19	0	0	1
乾側・小山(20)	16	17	14	3	0	1
阪谷(12)	10	11	9	2	1	1
上庄(27)	21	23	19	4	0	1
大野(61)	39	48	44	8	2	4
富田・五箇(19)	9	14	13	1	1	3
和泉(8)	4	5	3	2	1	1
不明(1)	0	1	0	0	0	0
総計(174)	118	142	121	20	5	12
●地域別集計 (回答率)	1高齢者のみで作業を行っている	2一人で作業を行っている(高齢者等に限らない)	3ヘルメットや安全帯を身に付けずに作業を行っている	4夜間に作業を行っている	5その他	無回答
下庄(26)	73.1%	88.5%	73.1%	0.0%	0.0%	3.8%
乾側・小山(20)	80.0%	85.0%	70.0%	15.0%	0.0%	5.0%
阪谷(12)	83.3%	91.7%	75.0%	16.7%	8.3%	8.3%
上庄(27)	77.8%	85.2%	70.4%	14.8%	0.0%	3.7%
大野(61)	63.9%	78.7%	72.1%	13.1%	3.3%	6.6%
富田・五箇(19)	47.4%	73.7%	68.4%	5.3%	5.3%	15.8%
和泉(8)	50.0%	62.5%	37.5%	25.0%	12.5%	12.5%
不明(1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
総計(174)	67.8%	81.6%	69.5%	11.5%	2.9%	6.9%

◆問4-2 住宅等周囲敷地における除排雪作業時の危険【回答者全体】

- 住宅等周囲敷地における除排雪作業時に危険だと感じることは、「①車などの交通量の多い道のそばで作業を行っている」(29.3%)の割合が最も高く、次いで「②夜間に作業を行っている」(27.0%)、「③手押し式小型除雪機等の除雪資機材の取り扱いになれていない」(10.9%)の順に高くなっています。
- 屋根下ろしの除排雪作業時と比較すると、作業時の危険性の割合は低い傾向にあります。

除排雪作業時の危険



(回答者:174件)

●全体集計	回答数	構成比
① 車などの交通量の多い道のそばで作業を行っている	51	29.3%
② 夜間に作業を行っている	47	27.0%
③ 手押し式小型除雪機等の除雪資機材の取り扱いになれていない	19	10.9%
④ その他	16	9.2%
無回答	74	42.5%
合計	207	

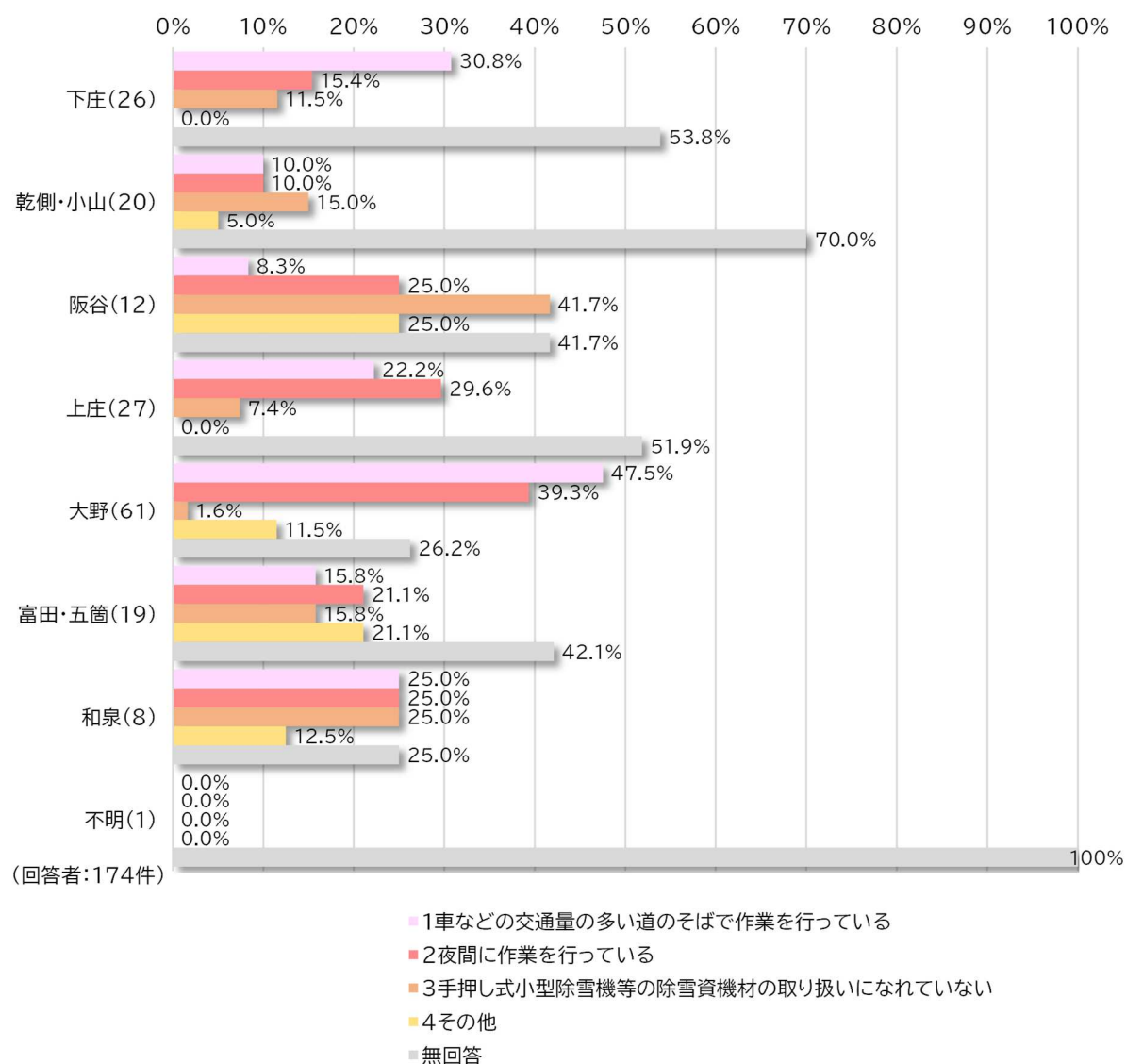
<その他の意見>

- 交通量が多い場合もだが、逆に少なくとも、時折車が来る方が危険。油断している。
- 屋根雪下ろしと同時進行したときの声掛けの徹底が不十分の場合がある
- 高齢者が除雪資機材(手押し式等の小型除雪機、トラクター)を操作している
- 除雪車通過後の除雪
- 流雪溝の蓋を開けたままにして作業を行っている。落ちないか危険。
- グレーチングの不良や開閉のない場所がある。
- 1人で屋根から滑り落ちた雪を掘る
- 高齢者が防寒衣のフードをかぶって側溝に玄関の雪を入れている際、車に気づかない時がある。

◆問4-2 住宅等周囲敷地における除排雪作業時の危険【地域別】

- ・「①車などの交通量の多い道のそばで作業を行っている」は、大野地区（47.5%）が最も高く、次いで下庄地区（30.8%）、和泉地区（25.0%）の順に高くなっています。
- ・「②夜間に作業を行っている」は、大野地区（39.3%）が最も高く、次いで上庄地区（29.6%）、阪谷地区（25.0%）や和泉地区（25.0%）の順に高くなっています。
- ・「③手押し式小型除雪機等の除雪資機材の取り扱いになれていない」は、阪谷地区（41.7%）、和泉地区（25.0%）、富田・五箇地区（15.8%）の順に高くなっています。

住宅周囲の敷地の作業時、危険だと感じること



●地域別集計 (回答数)	1車などの交通量の 多い道のそばで作業 を行っている	2夜間に作 業を行っ ている	3手押し式小型除雪機 等の除雪資機材の取 り扱いになれていない	4その他	無回答
下庄(26)	8	4	3	0	14
乾側・小山(20)	2	2	3	1	14
阪谷(12)	1	3	5	3	5
上庄(27)	6	8	2	0	14
大野(61)	29	24	1	7	16
富田・五箇(19)	3	4	3	4	8
和泉(8)	2	2	2	1	2
不明(1)	0	0	0	0	1
総計(174)	51	47	19	16	74

●地域別集計 (回答率)	1車などの交通量の 多い道のそばで作業 を行っている	2夜間に作 業を行っ ている	3手押し式小型除雪機 等の除雪資機材の取 り扱いになれていない	4その他	無回答
下庄(26)	30.8%	15.4%	11.5%	0.0%	53.8%
乾側・小山(20)	10.0%	10.0%	15.0%	5.0%	70.0%
阪谷(12)	8.3%	25.0%	41.7%	25.0%	41.7%
上庄(27)	22.2%	29.6%	7.4%	0.0%	51.9%
大野(61)	47.5%	39.3%	1.6%	11.5%	26.2%
富田・五箇(19)	15.8%	21.1%	15.8%	21.1%	42.1%
和泉(8)	25.0%	25.0%	25.0%	12.5%	25.0%
不明(1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
総計(174)	29.3%	27.0%	10.9%	9.2%	42.5%

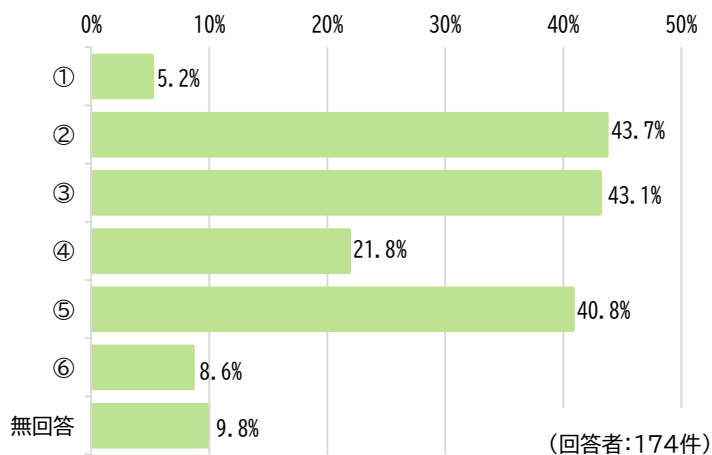
2. 除排雪に対する支援について

問5：除排雪の事故防止や除排雪体制づくりについて、必要な支援はありますか。（あてはまるもの2つ選択）

◆問5 除排雪の事故防止や体制づくりに必要な支援【回答者全体】

- 除排雪の事故防止や体制づくりに必要な支援は、「②屋根雪下ろしを除排雪作業するための装備・除雪資機材（ヘルメット、命綱を固定する金具【命綱固定アンカー】、安全带等）の購入費補助」（43.7%）の回答の割合が最も高くなっています。
- 次いで、「③住宅等周囲の敷地を除排雪作業するための装備・除雪資機材（手押し式小型除雪機等）の購入費補助」（43.1%）、「⑤除排雪支援を行う人に対する保険の加入支援」（40.8%）の順に高くなっています。
- 一方で、「①安全な除排雪作業に向けた手押し式小型除雪機の講習会の実施支援」（5.2%）と回答の割合が最も低くなっています。

除排雪体制づくりに必要な支援



●全体集計	回答数	構成比
① 安全な除排雪作業に向けた手押し式小型除雪機の講習会の実施支援	9	5.2%
② 屋根雪下ろしを除排雪作業するための装備・除雪資機材（ヘルメット、命綱を固定する金具【命綱固定アンカー】、安全带等）の購入費補助	76	43.7%
③ 住宅等周囲の敷地を除排雪作業するための装備・除雪資機材（手押し式小型除雪機等）の購入費補助	75	43.1%
④ 地域ぐるみの除排雪作業のノウハウなどの情報提供	38	21.8%
⑤ 除排雪支援を行う人に対する保険の加入	71	40.8%
⑥ その他	15	8.6%
無回答	17	9.8%
合計	301	

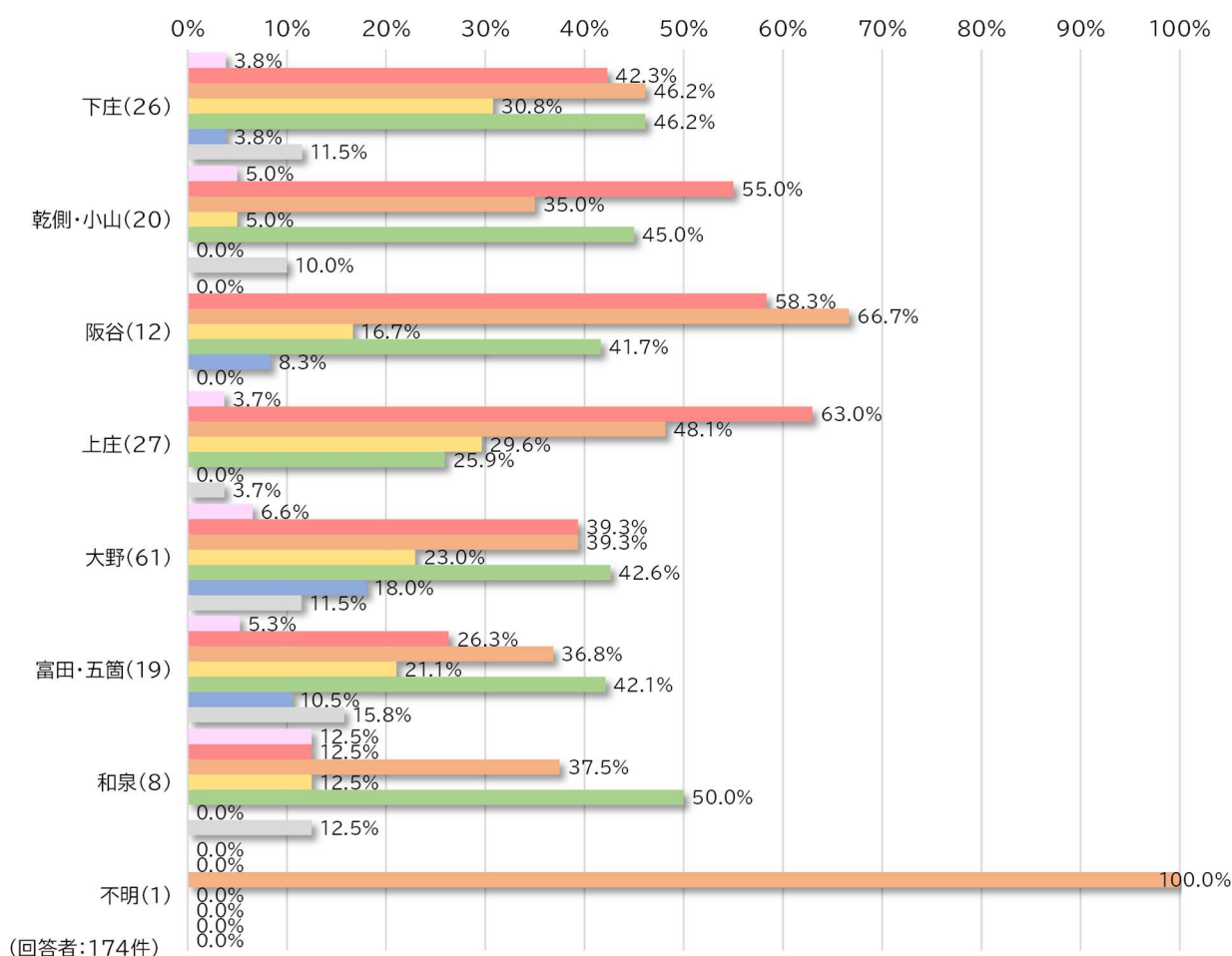
<その他の意見>

- ・流雪溝の水量確保。流雪溝にしたいので、側溝に水量を増やす。
- ・除排雪した雪を排雪溝の上に置いていくので、一度溝の蓋の上から雪を取り除いてからしか溝に捨てられない。
- ・「命綱を使うメリット」「どのようにして使うのか」について情報を提供して欲しい。ほとんどの人が命綱を使っていない。
- ・除排雪作業希望の受付、作業者の手配を行政が行う。作業料金を統一する。
- ・作業者名簿以外に依頼しても、補助を受けられるようにして欲しい。
- ・必要な時にすぐ来てくれる人員。市役所職員他全員が総出で除雪作業に回って欲しい。
- ・町中では排雪場所がない。
- ・勝山市が行っている小型除雪機の行政区へのレンタル支援。

◆問5 除排雪体制づくりに必要な支援【地域別】

- 「②屋根雪下ろしを除排雪作業するための装備・除雪資機材（ヘルメット、命綱を固定する金具【命綱固定アンカー】、安全带等）の購入費補助」は、上庄地区（63.0%）の割合が最も高く、次いで阪谷地区（58.3%）、乾側・小山地区（55.0%）の順に高くなっています。
- 「③住宅等周囲の敷地を除排雪作業するための装備・除雪資機材（手押し式小型除雪機等）の購入費補助」は、阪谷地区（66.7%）の割合が最も高く、次いで上庄地区（48.1%）、下庄地区（46.2%）の順に高くなっています。
- 「④地域ぐるみの除排雪作業のノウハウなどの情報提供」は、下庄地区（30.8%）の割合が最も高く、次いで上庄地区（29.6%）、大野地区（23.0%）の順に高くなっています。
- 「⑤除排雪支援を行う人に対する保険の加入支援」は、和泉地区（50.0%）の割合が最も高く、次いで下庄地区（46.2%）、乾側・小山地区（45.0%）との順に高くなっています。

除排雪体制づくりについて



- 1 安全な除排雪作業に向けた手押し式小型除雪機の講習会の実施支援
- 2 屋根雪下ろしを除排雪作業するための装備・除雪資機材（ヘルメット、命綱を固定する金具【命綱固定アンカー】、安全带等）の購入費補助
- 3 住宅等周囲の敷地を除排雪作業するための装備・除雪資機材（手押し式小型除雪機等）の購入費補助
- 4 地域ぐるみの除排雪作業のノウハウなどの情報提供
- 5 除排雪支援を行う人に対する保険の加入支援
- 6 その他
- 無回答

●地域別集計 (回答数)	1安全な除排雪作業に向けた手押し式小型除雪機の講習会の実施支援	2屋根雪下ろしを除排雪作業するための装備・除雪資機材(ヘルメット、命綱を固定する金具【命綱固定アンカー】、安全帯等)の購入費補助	3住宅等周囲の敷地を除排雪作業するための装備・除雪資機材(手押し式小型除雪機等)の購入費補助	4地域ぐるみの除排雪作業のノウハウなどの情報	5除排雪支援を行う人に対する保険の加入支援	6その他	無回答
下庄(26)	1	11	12	8	12	1	3
乾側・小山(20)	1	11	7	1	9	0	2
阪谷(12)	0	7	8	2	5	1	0
上庄(27)	1	17	13	8	7	0	1
大野(61)	4	24	24	14	26	11	7
富田・五箇(19)	1	5	7	4	8	2	3
和泉(8)	1	1	3	1	4	0	1
不明(1)	0	0	1	0	0	0	0
総計(174)	9	76	75	38	71	15	17
●地域別集計 (回答率)	1安全な除排雪作業に向けた手押し式小型除雪機の講習会の実施支援	2屋根雪下ろしを除排雪作業するための装備・除雪資機材(ヘルメット、命綱を固定する金具【命綱固定アンカー】、安全帯等)の購入費補助	3住宅等周囲の敷地を除排雪作業するための装備・除雪資機材(手押し式小型除雪機等)の購入費補助	4地域ぐるみの除排雪作業のノウハウなどの情報	5除排雪支援を行う人に対する保険の加入支援	6その他	無回答
下庄(26)	3.8%	42.3%	46.2%	30.8%	46.2%	3.8%	11.5%
乾側・小山(20)	5.0%	55.0%	35.0%	5.0%	45.0%	0.0%	10.0%
阪谷(12)	0.0%	58.3%	66.7%	16.7%	41.7%	8.3%	0.0%
上庄(27)	3.7%	63.0%	48.1%	29.6%	25.9%	0.0%	3.7%
大野(61)	6.6%	39.3%	39.3%	23.0%	42.6%	18.0%	11.5%
富田・五箇(19)	5.3%	26.3%	36.8%	21.1%	42.1%	10.5%	15.8%
和泉(8)	12.5%	12.5%	37.5%	12.5%	50.0%	0.0%	12.5%
不明(1)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
総計(174)	5.2%	43.7%	43.1%	21.8%	40.8%	8.6%	9.8%

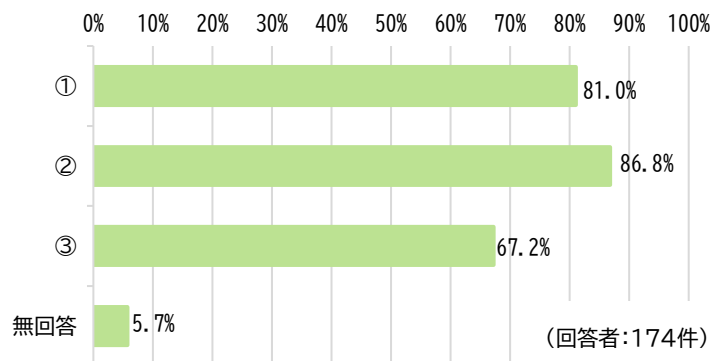
3. 大野市の除排雪対策の制度や取組について

問6：昨シーズンに実施した、市の除排雪に対する支援制度等をご存じですか。（該当するもの全て選択）

◆問6 市の除排雪に対する支援制度の認知度【回答者全体】

- ・「①雪下ろし作業者の紹介」や「②高齢者等雪下ろし支援事業」の認知度は、8割以上となっていますが、「③地域ぐるみ雪下ろし支援事業」は約7割と少し低くなっています。

市の支援制度の認知度

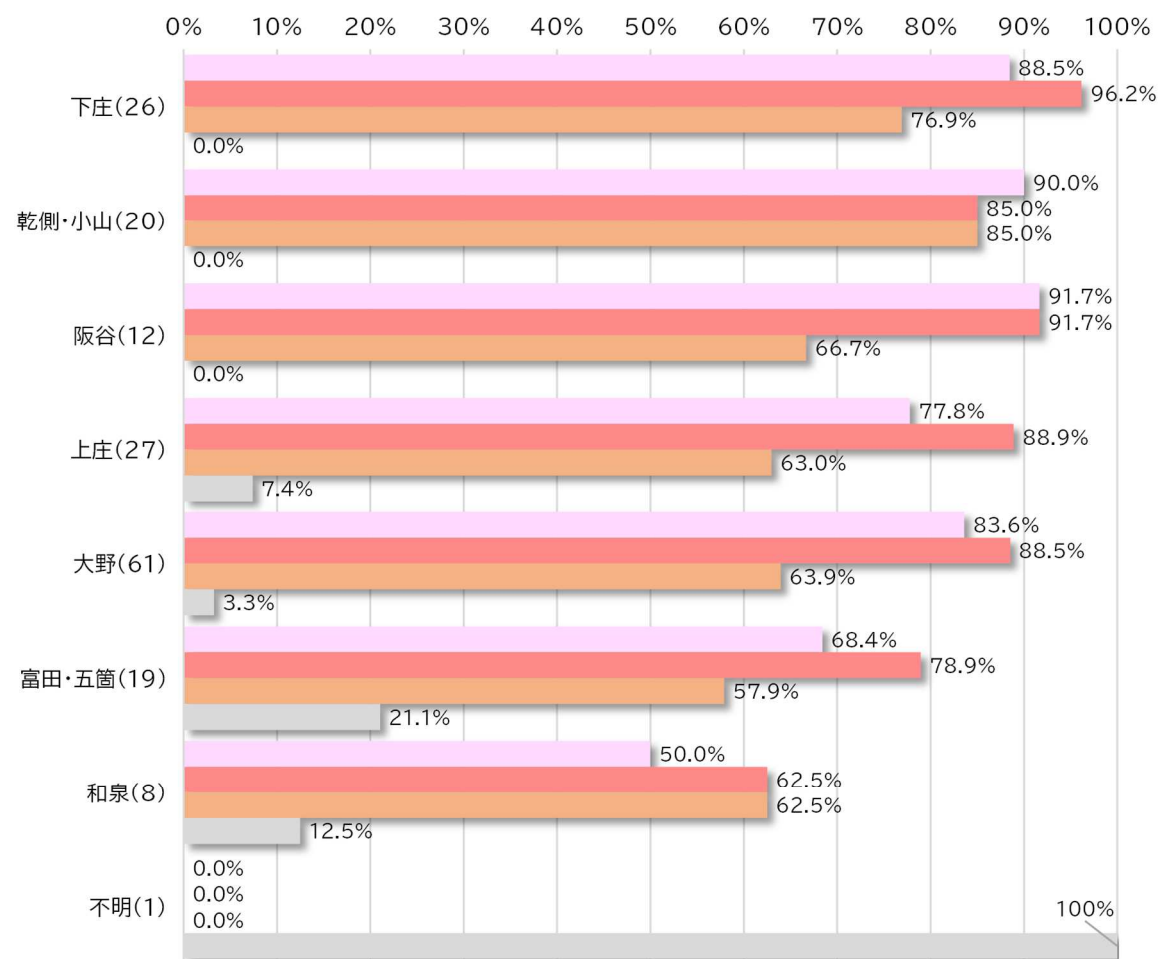


●全体集計	回答数	構成比
① 雪下ろし作業者の紹介	141	81.0%
② 高齢者等雪下ろし支援事業	151	86.8%
③ 地域ぐるみ雪下ろし支援事業	117	67.2%
無回答	10	5.7%
合計	419	

◆問6 市の除排雪に対する支援制度の認知度【地域別】

- 和泉地区では、全ての支援制度について、他の地区よりも認知度が低い傾向にあります。
- 「③地域ぐるみ雪下ろし支援事業」は、乾側・小山地区（85.0%）と下庄地区（76.9%）とで約8割の認知がある一方で、他の地区と認知度の差が見られます。

市の除排雪支援制度の認知度



(回答者:174件)

■1雪下ろし作業者の紹介 ■2高齢者等雪下ろし支援事業 ■3地域ぐるみ雪下ろし支援事業 ■無回答

●地域別集計 (回答数)	1雪下ろし作 業者の紹介	2高齢者等雪下ろ し支援事業	3地域ぐるみ雪 下ろし支援事業	無回答
下庄(26)	23	25	20	0
乾側・小山(20)	18	17	17	0
阪谷(12)	11	11	8	0
上庄(27)	21	24	17	2
大野(61)	51	54	39	2
富田・五箇(19)	13	15	11	4
和泉(8)	4	5	5	1
不明(1)	0	0	0	1
総計(174)	141	151	117	10

●地域別集計 (回答率)	1雪下ろし作 業者の紹介	2高齢者等雪下ろ し支援事業	3地域ぐるみ雪 下ろし支援事業	無回答
下庄(26)	88.5%	96.2%	76.9%	0.0%
乾側・小山(20)	90.0%	85.0%	85.0%	0.0%
阪谷(12)	91.7%	91.7%	66.7%	0.0%
上庄(27)	77.8%	88.9%	63.0%	7.4%
大野(61)	83.6%	88.5%	63.9%	3.3%
富田・五箇(19)	68.4%	78.9%	57.9%	21.1%
和泉(8)	50.0%	62.5%	62.5%	12.5%
不明(1)	0.0%	0.0%	0.0%	100%
総計(174)	81.0%	86.8%	67.2%	5.7%

◆問7 地域ぐるみ雪下ろし支援事業について不便なこと

- ・地域ぐるみ雪下ろし支援事業の不便な点については、特に制度の補助額に関する意見が多く見られます。

周知・説明	<ul style="list-style-type: none"> ・対象世帯に対する周知、説明が不十分。 ・助成券の使用について、事前に説明してあるのに、高齢者が理解してくれない。 ・対象世帯でも、同じ町内に長男がいる世帯でも対象になっている世帯がある。依頼があって雪下ろしをしたが、他の世帯から見るとなぜ対象者となっているのか、もっと市の基準を明確に提示すべきである。
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金制度の非課税世帯の撤廃。 ・空き家がなぜ対象外なのか。 ・高齢者等雪下ろし支援事業の対象基準が厳しすぎるのでは？緩和して頂きたい ・制度をあまり変更しないでほしい。前年は補助を受けられたのに、次の年には補助なしになってしまった人などは不満を持つため。 ・対象と非対象の家の差が少なく、(市内に子供がいる)などで事業を使わず、ボランティアで雪下ろしを行った。
申請手続き	<ul style="list-style-type: none"> ・支援金の請求が2本立てとなっており、複数回申請しなければならない。 ・近年事故多発で保険加入のハードルが高い。手続きが面倒 ・生活道路の除雪の際の毎回の写真撮影
補助額	<ul style="list-style-type: none"> ・結の故郷地域が輝く交付金の2万円を受けるのに面倒な手続きや保険加入、対象世帯が多いなどの負担に対し、2万円しかないのでは作業量を払いたいのには払えない。 ・要支援者の中には、15,000円分の券をもらっても支援者の手配が困難で、何もできないままの世帯がある。このような世帯こそ支援すべきなのに、これを補うのに結の故郷の交付金2万円で区内の全要支援世帯をカバーしろという趣旨の新制度は不十分と考える。 ・多雪により雪下ろしの回数が増えた場合は、支援金の増額をお願いしたい。 ・作業賃金が安い。 ・現在の地域ぐるみ雪下ろし支援事業は、1件屋根雪下ろしでも、何十件屋根雪下ろしでも、同額しか助成金が出ない。実績に応じた支出に出来ないか。 ・助成券の活用方法をもう少し考えて欲しい。 ・補助金の額が安い。 ・補助金の額が少なく、個人負担が多くなって、高齢者は収入の年金が少なく大変である。区としても積極的に支援事業を進められない。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・支援事業は区内の高齢者の方もご存じで区長に連絡を頂けるので、継続して欲しい。 ・今までは公民館で保険の加入支援をしてもらえたが、今年から自分でしな

いといけなかった。保険料も以前より高かった。

- ・平日での作業が困難(区での人材確保)と感じた。
- ・雪下ろし作業の紹介事業がありますが、依頼すると法外な単価を言われることがあるようです。市の方でも登録時に再指導をお願いしたい。
- ・当町内では、支援対象世帯の内「高齢一人暮らし世帯」の雪下ろしをこれまで実施してきた。これ以上対象世帯が増えると、雪下ろしの協力者を増やすことも困難で、先行き雪下ろし支援を継続できるか、不安である。対象世帯でも、同じ町内に長男がいる世帯でも対象になっている世帯がある。依頼があつて雪下ろしをしたが、他の世帯から見るとなぜ対象者となっているのか、もっと市の基準を明確に提示すべきである。
- ・支援が必要な高齢者宅の雪下ろしと支援者側の雪下ろしが重なる。
- ・村全体が高齢者となっている。

4. その他

◆問8 その他、市の除排雪対策について

- ・主に「共助体制、人材の確保」、「支援制度の見直し・拡充」、「除排雪時の装備・資機材」、「自宅以外の除排雪」、「雪の捨て場」、「流雪溝」、「道路の除排雪」等について意見がありました。

<p>共助体制、人材の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本は地区の共助と考えるが、高齢化が進む現状では、地区内だけの取組みでは困難ではないか。 ・危険を伴うため、補償を含め難しい。地域でやっていくことが、必要だと分かるが、人材も含め年々必要とされる世帯が増えていく現状で、難しい課題だと思う。 ・区内の除排雪作業の支援活動は必要だと思うが、支援者が高齢であることや、高所作業者がいないなどの理由で出来ていない。 ・小規模自治会では人材が不足になり対応できない。広域な取組も必要ではないか。 ・当区は支援できる人は一人もいない。みんなが自分の家を守る為に知人、親戚その他に必死でお願いし対処している。 ・支援できる人材がいない ・以前はある程度屋根に雪が積もっていれば各戸において屋根雪下ろしをしていたものが、今では高齢者が多く、相当の量が積もらないと屋根雪下ろしをしない状況で、自身では高齢となって雪下ろしが出来ないため、事業者に依頼している状況。若い世帯と同居している世帯もあるが、屋根雪下ろしは重労働で危険を伴うため、自分の息子にさえ、屋根に上ることをさせてこなかった世帯も多く、たとえ若い人が若干いたとしても、その人たちに依頼して、地区内で協力して屋根雪を下ろすということは、現実的ではない。もっと地域の実情に合った雪対策を講じることが必要だと考える。人力ではなく、合理的な屋根雪下ろしや排雪の方法を開発や、これらの方法に対して助成制度を設けるなど、雪に対する政策のプライオリティを挙げて、積極的な対策を望む。
<p>支援制度の見直し・拡充</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者は令和3年度と同じでもよいが、金額や保険の加入など、令和2年度前に戻して欲しい。 ・女性の単身世帯があり、屋根雪下ろしの支援は必要だと思うが、非課税世帯ではなく、補助が無い為、出来ていない。 ・助成対象者の基準が厳しくなり、助成額も下がった。重労働であり、かつ高額。実態から遠ざかっていないか。区長会でも苦情が噴出していたが、当然と思われる。 ・高齢者等雪下ろし支援事業と地域ぐるみ雪下ろし支援事業の金額が少ない。区民の作業人数が多いほど単価/人が小さく、集めづらい ・雪下ろしできずに大雪でもほったらかしの家が増えている。たとえ若者がいても雪下ろし支援をする対象をどんどん広げないと、今に家がつぶれることが起きるかもしれない。 ・集落センター除排雪に対しても助成金対象にして欲しい。仮に年2回まで対象にするなどお願いしたい。 ・いつも道路を中心に除排雪して頂き、大変ありがたく思っている。個人の敷地内の除排雪は、高齢者が増えていくので、外部からの業者さんなどの支援が必要。その際の料金がとても高いので、それらに対する多めの助成をお願いしたい。 ・雪下ろし助成券を金券に変え、近所の方(登録してない方←登録するほど出来ない方)に屋根雪下ろし等をお願いして、金券を渡す ・もう少し手厚い支援をお願いしたい。 ・除排雪支援が必要な世帯に対しては、例えば、雪下ろしをしてもらう、

してもらわないにかかわらず大野市内で使用できる商品券を配布する事は出来ないか。雪下ろし作業者へ支払う一部に利用したり、暖房費(灯油など)の一部に使用する事が出来ないか。

- ・降雪量が多い年は、2回の雪下ろし追加支援があると良い。
- ・令和2年度豪雪時に、国の災害救助法が適用になり、「屋根雪下ろし」支援で勝山市は適用になり、大野市は制度上の問題で適用外となった。改善が必要では。また令和3年度から雪下ろし支援が、市民税非課税世帯に変更になったが、市の予算等の問題があると思うが、低所得世帯範囲の見直しを検討願う。
- ・雪下ろし作業者の料金設定が個々によりバラバラ。作業時間や作業内容により上限を決めるなどして、依頼者の負担を少しでも軽くして欲しい。
- ・要件を満たす世帯の基準が合わないが困っている世帯の場合、個人的に支援を行っている。

<雪下ろし作業者の紹介>

- ・区内で雪下ろし支援に参加できる人材が大変少ない実態の中で、作業をしてくれる人を紹介して頂けるのはありがたい。
- ・雪下ろし作業名簿に登録されている事業者などが少なく、昨年のように大雪になるとなかなか下ろしてもらえないようである。近くに知った事業者等がないことから、なかなか頼みにくいようである。
- ・適正な価格での雪下ろし作業者の拡充。今後高齢化が進めば増々必要。
- ・雪下ろし作業賃金が高い。
- ・作業名簿に登録した者等に依頼することになっているが、知人に急遽依頼した時にもクーポンを使える様にして欲しい。
- ・登録者にしか使えない助成券はよくない。自家宅の内容をよく知っている昔なじみの友人知人、大工、板金屋等個人的付き合いのある人に頼んだ方が安心。旧市内と郊外村部等の気質の違いも考え、老若の状況も考慮してほしい。
- ・雪下ろし作業名簿に登録のない業者に依頼しても助成券を使えるようにしてはどうか。従来依頼する業者の方が頼みやすい。勝手も分かっている。混雑時には初めて依頼してもなかなか来てくれないので。

<高齢者等雪下ろし支援事業>

- ・高齢者等雪下ろし支援事業を自治会が実施する場合、作業者の確保が難しく、依頼者の自己解決になるため活用しにくい。
- ・クーポン券補助は喜ばれているので、拡充の方向で進めて欲しい。
- ・シーズン前に説明会を開いて欲しい。
- ・助成券の枚数を増やして欲しい。屋根だけでなく、戸口の除雪にも使用できるよう検討して欲しい。
- ・昨今除排雪費用が値上がりし、収入の少ない又は年金暮らしの方には、かなり大きな負担となっている。支援金の増額など考えて欲しい。
- ・自治会のみで雪下ろしを行った場合は、助成金を増やして欲しい。
- ・市が結の精神を前面に出して事業推進するということに15,000円券を配って後は自分の責任で手配しなさいというのでは支援につながらない。従来の制度の方が結につながる。制度の改善が必要。
- ・新制度(クーポン券方式)に代わってから、高齢者世帯の利用が減った。雪下ろしは実施しているようなので、使いづらい、面倒などの理由があると思われる。実施前後の写真を貼付するのが難しいと指摘された。
- ・高齢者等雪下ろし支援事業で、以前の様に写真と領収書により12,000円、玄関前5,000円の助成の方が良いと思う。
- ・『高齢者等雪下ろし支援事業』について、区長の負担軽減の目的と書い

	<p>であるが、何が問題か分かっていない様に見える。</p> <p><地域ぐるみ雪下ろし支援事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ぐるみ雪下ろし支援事業の対象範囲（例えば、ふれあい会館などの地区の管理する建物）の拡大を要望する。 ・坂谷区では、地域ぐるみの雪下ろしの申請をした区が減った。 ・当区では高齢者がほとんど。地域ぐるみ雪下ろし支援事業もあと何年出来るか分からない。いろいろな支援事業が 60 代 70 代の高齢者を逆に苦しめることになっている。 ・助成券が使いにくい(相手側が嫌がる。現金で払ってくれと言われる)
屋根雪下ろしの除排雪の装備・資機材	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根からの落下が多いと思う。命綱固定アンカー、安全帯を使用しての雪下ろしが普及する政策を進めて欲しい。 ・危険である屋根へ上ること自体が少なくなるため、「屋根融雪設置費用の補助」も考えて欲しい。 ・地区で道路除雪に出ている者が、夜間作業し日中休んでいるため、地域ぐるみの雪下ろしは難しい。屋根融雪を安くする方法の検討が必要。
住宅等敷地内の除排雪の資機材	<ul style="list-style-type: none"> ・除雪資機材(特に小型ロータリー式)は、各家庭の除雪が非常に短時間で済み、有用なものである。積極的に購入し、また、購入しやすいように個人にも補助を出してもらうことを強く要望する。除雪を全て行政頼りにせず自助で取り組めることと、高齢者でも取り扱いしやすいため有用である。 ・手押し型除雪機の区内での購入補助を取り入れて欲しい。 ・大雪となった場合、小型除雪機では対応できない。もう少し大型の機械が必要となる。 ・地区別に除雪車を貸し出してほしい(小型)
自宅以外の除排雪	<ul style="list-style-type: none"> ・個人宅の雪下ろしは出来なければ頼むが、区の公共施設(集会所、農作業場(共同)、お宮)の雪下ろしは、高齢のため委託ができないか。 ・市道の除雪は隣接する区の会館の駐車スペースの除雪を同時に行ってほしい。
雪の捨て場	<ul style="list-style-type: none"> ・区域の空地、田んぼ、畑への雪捨ての許可取得に尽力して欲しい。 ・除雪作業車による道路脇に押し寄せられた残雪が大量で、車・人の出入りが困難になるケースがあり、区民から苦情が多い。 ・他町内から屋根から滑り落ちた雪、空き家の道路雪を運んでくる。仕方のないことなのですが、でもたまに空き家だが、大野の他の地区に家を建てて住んでいる方がおられる。除排雪を市が注意する事が出来れば。
流雪溝	<ul style="list-style-type: none"> ・流雪溝の水が流れにくい区域があるので、まんべんなく流れるようにして欲しい。各期間の流雪溝の水を流す時間帯などを、シーズン前に地区に示して欲しい。 ・流雪溝の整備をして欲しい。 ・雪下ろしをしても排雪溝の水が流れないため、雪の処分に困っている。 ・朝の除雪による家の前の雪と前日に降った雪を排雪する為の流雪溝がしっかり機能していないことをもっと真剣に取り組んで欲しい。苦情が多い。 ・排雪溝の上に雪を押しつけて置いていかない除雪を考えて欲しい。できれば、押しつけて置いていかず、トラックか何かで持って行ってもらえば良い高齢者支援になる。排雪溝に水を流して欲しい。大雪になればなるほど、水が来ないので、雪が捨てられない。雪がスムーズに捨てられたら、助かる高齢者はたくさんいる。市にしか出来ない支援である。 ・雪捨て場でもない用水路などヘフォークリストやトラクターで排雪して流雪溝の流れを悪くする人がいるので困る。注意をしても聞き入れない。 ・三番通りや四番通りの背割水路が冬期にあふれると聞いている。三番通

	<p>りは水融雪しており、除雪不要の中、同通りの用水路に大量の水が流れている。本町通りの水量は、水があふれることから減衰している方が上流にいるとも聞いたことがあるが、明らかに水量が少ない所に排雪している。もっと水量を増して、スノッパ3杯くらい一気に入れても用水路がつまらないほどの適量の水を流していれば、排雪も容易で水路が詰まる事もなく、水も溢れることもなく、通学路の子供達も道路にはみ出て歩く場所も少なく出来ると判断する。(今冬は3日間雪つまり状況が続いた。)各通りの水量実態調査と適切な配分をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・側溝に水が来るようにして欲しい。
<p>道路の除排雪</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・排雪・除雪をする空地がないし、流雪をしようにも側溝に十分な水量がない。除雪機を購入しても利用価値が低い。一日2度の除雪車の出動をして欲しい。 ・除雪の仕方に差がある。オペレーターの教育強化を検討して欲しい。 ・昨年度から区の要望に応じて幅員の狭い道路等に除雪車が入るようになり助かっている。 ・狭い市道について、各区から希望を取り、通常除雪できない狭い市道も除雪して欲しい。毎日でなくても週に一度とか、大雪の時など。各区の子供達が集合場所へ行くのに不便で危険である。 ・区内の市道など、道幅いっぱいには除雪して欲しい。近年、除雪幅が狭い。 ・除雪(市道)の作業時間帯が朝早すぎて(AM4:00頃)通勤時間帯には、かなりの積雪になっている。 ・除雪業者によって道路の状況に違いがある。適切な指導をして欲しい。 ・市道除雪の際、交差点付近に積み上げると見通しが悪くなり危険。 ・できれば県道から50mほど除雪をして欲しい。 ・除雪車が通るのが遅い。道路によっては明け方にならないと来ない。 ・赤根川排雪場に向かうトラックやダンプが清瀧区内の狭い道路を通る時がある。通るルートを示してなるべく狭い道路を通らないようにして欲しい。 ・入口に道路除雪が残っている。 ・市道から家への入り口に除雪車により多くの雪を残していく。もう少し考えた除雪をお願いしたい。屋根雪下ろしが必要な時には業者が少なく、なかなかできない。 ・集落内の除雪が朝早すぎて通勤時には再度積雪が多くなる。 ・町内の道路が狭いため、大型除雪車が入らないため、小型除雪車では大雪の時には除雪しきれしていない。 ・雪が降り続くときは、除雪の回数を増やしてほしい。圧雪でデコボコ状態の時は除雪してほしい。 ・雪が小康状態になった時にロータリー車が排雪に来ているが、市街地で道幅が狭くなっているところを優先すべき。業者と除雪エリアとの関係があるかもしれないが、道路状態や交通量等を把握したうえで柔軟に運用すべきだ。 ・除雪車が作業して下さるのはありがたいが、家の前に固い雪の山が残り、車庫から車を出すときに困る。特に女性の力では、無理な残雪はとても困る。出来るだけきれいに取って行ってほしい。 ・春日公園西側の道路を除雪の為に何回も通るのは、近所に騒音、振動のストレスが相当あるので、除雪の方法と段取りを考えて欲しい。この件は市の方へ苦情として連絡があったと思う。 ・今年度最後の雪が降った時(約30cm)に、除雪車の出動がなくて大変困った。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人任せの今の市の除排雪対策では、どうにも対応できないと思う。 ・川へ除雪する時、すぐに雪が積もってなかなか除雪が進まない。夜中は

	<p>川が流れるため、夜中に除雪している(2~4時頃)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日、積雪量が違うため、町内で協力してのチラシを作って欲しい。回覧する。 ・ 除雪で傷んだ市道の補修を行って欲しい。 ・ 自宅前の車両の出入り口を町内の皆さんが毎日行っているが、毎朝除雪車がやっと空けたところに山のように雪を積んでいくために、毎日、朝早起きして除雪しなければならない。車の為の道路の除雪なのか。高齢者はとても大変な思いをして除雪している。家屋前の側溝は、水が流れていないので、大変な作業を毎日している。決して高齢者の住みよい町ではない。 ・ 義景公園内の雪害による樹木の倒壊、枯枝の撤去等、観光客の為に、雪解けとともに早急をお願いしたい。 ・ 高齢者なので、市の支援制度のこともよくわかっていないので、もっときちんと知らせたい。(広報などに出ているかもしれないが目も悪いので読めない) ・ バス停、ごみ置き場、郵便ポスト、公民館(道場)の除雪排雪を可能な人に1時間3,000円(除雪機)、ユンボは5,000円を地区の予算で払っている。 ・ 個人の敷地内の除排雪を支援する活動はないが、依頼されたら対応している ・ 区の月例会議で説明したが、住民の反応は特になかった。 ・ (市の除排雪対策について) 良いと思う。
--	---